

## I. 研修の開催に関すること

1. 研修開催場所の箇所数 ( 1 )箇所
2. 研修開催場所の選定にあたって考慮したこと(開催地域や開催会場の選定にあたって考慮した事柄があれば、ご自由にご記入ください)

--

3. 研修開催回数 延べ( 5 )回

## II. 研修受講者に関すること

1. 研修受講者数等(実人員)  
(開催回別に記入してください)

開催回	応募者数	受講者数
第1回	( 36 )名	( 36 )名
第2回	( 36 )名	( 34 )名
第3回	( 36 )名	(36予定)名
第4回	( 36 )名	(36予定)名
第5回	( 36 )名	(36予定)名

※ 必要な場合、行を挿入した上でご記入ください

※ 各講義・演習ごとに部分的に受講する研修形式の場合には、当該講義・演習ごとの人数を記入してください  
(講義・演習ごとの記入が不可能な場合は、延数を記入願います)

2. 研修受講者の所属施設  
(実数で記入下さい)

(記載例) -----  
 【応募者数・参加者数】  
 Aさんが、4月と10月に  
 研修に参加した場合に  
 「1」と計上

施設種別	応募者数	受講者数
病院	( 28 )名	( 28 )名
診療所	( 8 )名	( 8 )名
助産所	( 0 )名	( 0 )名
介護老人保健施設	( 0 )名	( 0 )名
指定訪問看護事業所	( 0 )名	( 0 )名
その他 ( )	( 0 )名	( 0 )名

3. 研修受講者のうち、病院の  
場合の病床規模

許可病床数	受講者数
100床未満	0
100～200未満	0
200～400未満	4
400床以上	24

4. 研修の受講資格・選考基準等(施設類型や職位等による基準を設けているか否か等について  
ご自由にご記入ください)

三重県内の医療機関に就労後1年以内の新人助産師を対象とした。

5. 事業の周知及び公募方法(ご自由にご記入ください)

三重県産婦人科医会の協力を得て、県内の産婦人科を標榜している医療機関や助産所へ郵送にて通知し周知。

### Ⅲ. 研修内容に関すること

#### 1. 受講形式

Ⓐ 全日程を受講することを基本としたコース形式

B 講義毎に部分的に受講する形式

#### 2. 研修プログラム

時期 (月)	研修テーマ	時間数	研修内容・方法
9月	入院妊産婦の受け入れ・家族への配慮や助言-倫理原則に基づいた援助	1	【講義】・助産実践における質保証について理解を深め、助産師に求められる実践能力について考察する。 ・女性の自己決定と倫理的問題について理解を深め、倫理原則に則った援助について考察する。
9月	母子の健康における妊婦健診の果たす役割	1	【講義】・産婦人科診療ガイドライン産科編2011に則り、妊婦健診の実施内容、妊婦健診において注意すべき身体所見、妊婦に勧められる検査の種類とその実施時期、胎児発育不全のスクリーニング等について理解を深める。
9月	DV・子ども虐待に関するリスクアセスメント	1	【講義】・妊娠期の心理的特徴について理解を深める。 ・子ども虐待やDVのリスクアセスメントの視点や介入の方向性を理解し、その重要性を認識する。 ・リスクアセスメントを行う看護師が置かれている状況を理解する。
9月	ハイリスク妊産婦の入院場面、事例設定に対する予測・判断	1.5	【演習】・ハイリスク妊産婦2事例の入院場面で必要な看護についてロールプレイ実施し、実施した内容を振り返る。 ・ハイリスク妊産婦とその家族へ十分な説明を行い、選択を支援する働きかけについて実践的に学ぶ。
9月	ハイリスク妊産婦への対応・実践	1.5	【講義】・ハイリスク妊娠について理解を深め、各種事例への実践過程を振り返りながら、対応方法について学ぶ。 ・ハイリスク妊産婦の管理における助産師としての心構えを養う。
9月	助産師に必要な薬の知識	1.5	【講義】・薬の作用・使用目的、妊婦の生理機能の変化と薬の影響、薬物療法における看護師の役割について理解を深める。
9月	助産業務におけるリスクマネジメント	1.5	【演習】・前期破水に伴い、分娩誘発の適応となった初産婦の事例をもとに、IBL形式でグループワークを実施。輸液管理(分娩誘発・促進)、適切な感染管理に基づく感染防止などの視点から、助産業務におけるリスクマネジメントへの理解を深める。
9月	日産婦新基準による分娩時胎児管理法	3	【講義・演習】・「リアルタイムトリアージ法」である日本産科婦人科学会の新基準に基づき、5段階の胎児心拍数パターンレベルの分類と医療職者がとるべき対応について学ぶ。
2月 予定	早期新生児のアセスメント、出生後の異常の評価と対応	3	【講義・演習】・Consensus2010に基づく新しい日本版新生児蘇生法ガイドラインに基づき、新生児のアセスメント能力を高めるとともに、新生児蘇生法の実践を学ぶ。
2月 予定	緊急時の対応の実際、複数課題の実施	3	【演習】・事例をもとに、出生後の異常の評価を行い、緊急時の対応の実際を学ぶ。 ・新生児の特性や状況に応じたケア技術の選択と応用について理解を深める。
3月 予定	分娩時会陰保護の実際と児頭の回旋について-急速遂娩術も含めて	1.5	【講義・演習】・分娩機転・分娩経過への理解を深め、適切な会陰保護の実際と急速遂娩術について学ぶ。
3月 予定	緊急時の対応-弛緩出血、出血性ショック等	1.5	【講義・演習】・頸管裂傷、高位膣壁裂傷、膣壁血腫、弛緩出血など分娩後大量出血の原因、診断と治療について理解を深め、リスク評価の能力を養う。 ・分娩時会陰裂傷の診断と修復技術を実践的に学ぶ。



#### IV. 事業の評価等に関すること

1. 事業の実施にあたって工夫した点(自由にご記入ください)

研修参加者より研修日毎に研修内容に関するフィードバックを得、次回の研修内容に反映させるとともに、研修前後で研修参加者による自己評価を行う。

2. 事業の効果および評価に関すること(自由にご記入ください)

事業の全日程終了後、企画評価、実施評価をふまえ、総合評価を実施する。

#### V. 事業の委託に関すること

1. 事業の委託    A 委託していない     B 委託している    委託先(三重県立看護大学)